



# 2013年度 事業報告

公益財団法人東京YWCA

## 目次

ご挨拶.....	1
YWCAの使命(ミッション).....	2
Ⅰ 平和と人権事業.....	3
Ⅱ 青少年育成事業.....	6
Ⅲ 女性の健康事業.....	8
Ⅳ 社会福祉に資する事業.....	10
Ⅴ 非営利機関・団体への施設貸与事業.....	12
Ⅵ 東日本大震災被災者支援事業.....	13
Ⅶ 収益事業および共益的な事業.....	14
数字・資料で見る東京YWCAの事業活動.....	15
2013年度公益財団法人東京YWCA組織図.....	23
理事・監事・評議員.....	23
加盟・協力団体.....	24
賛助会員・寄付者.....	24
財務諸表.....	26
監査報告.....	30
施設一覧	

## ご挨拶

青葉の候を迎え、新年度の活動も落ち着きを見せ始めました。関係各位のご協力により、この季節を迎えられますことを感謝し、ここに2013年度事業につき報告申し上げます。

当該年度、特筆すべきことの一つは、新規に開園したまきば保育園が、1年を経て、3月22日に9名の卒園生を送り出したことです。新事業にてんやわんやの毎日でしたが、卒園生が1人ずつ、楽しかったことを述べるのを聞き、苦労も吹き飛ばす思いを致しました。

実は3月16日に、保育園の前身であるまきば幼稚舎の最後の卒園式が、そして23日には「まきば幼稚舎感謝の会」が行われました。感謝の会にはかつての園児や保護者、教諭等が多数参集し、対応に追われたほどでした。国領の地で、幼い子どもたちのための事業が始まったのは約40年前、それが幼稚舎という形になり、さらに保育園へと受け継がれたのです。これからも子どもたちの健やかな生長のために尽力して参る所存です。

次に申し述べたいのは東日本大震災被災者支援事業です。10年間は続けるという決意の下、会員が中心になって支援バザーを6月末に行いました。同時に開いた、東京近郊避難者のための専門家を招いての相談コーナーには、予想以上の方々が訪れ、2年以上が経過しても、なお問題が山積していることを痛感させられました。

ここまで良い面を述べて参りましたが、本財団は決して順風満帆という状況ではありません。療育事業(板橋)や中国帰国者日本語教室等の公益事業に対する補助金や委託金は、年々削減の傾向にあり、事業運営を困難にしています。公益事業を支える収益事業部門も周辺環境の変化により減収を余儀なくされています。

全力を上げて財政の健全化を図って参りますので、今後とも尚一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2014年6月

公益財団法人東京YWCA

代表理事 川戸れい子

## YWCAの使命(ミッション)

定款に定めた目的を達成するために、加盟団体である日本YWCAのビジョンをふまえ、東京YWCAとして以下のことを年間の基本方針・重点課題として掲げて各事業を行った。「非戦・非核・非暴力」の立場で、全ての人の人権が守られる平和な社会の実現を目指すため、さまざまなアクションが起こされたことが今年度の特徴である。3年目となった公益財団法人の運営は徐々に落ち着きをみせ、会員の力を生かし、また他団体との連携のもとに事業計画に沿って各事業の充実に努めた。公益事業を支えるための資金調達のしくみ作りについては、理事会のもとにファンドレイジングプロジェクトを設置し、全会的に取り組みを始めた。使命を共に推進する新しい仲間、若い仲間が着実に育ってきている。

### 日本YWCAビジョン

**使命** イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。

世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

### 第31総会期主題

平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

### 日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
  - ・平和憲法をまもり、世界に広める。
  - ・原発のない社会をつくる。
  - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く。
- (2) 女性と子どもの権利をまもる
- (3) 若い女性のリーダーシップを養成する

### 東京YWCA 2013年度基本方針・重点課題

#### 基本方針

1. 非戦の立場に立ち、平和憲法を護り、活かす。
2. 核兵器のない世界、原発に頼らない社会を目指す。
3. 環境保全のために循環型社会を目指す。
4. いのちを尊び、平和を願い求める青少年を育てる。
5. 個人の尊厳を重んじ、支え合う社会を目指す。

#### 重点課題

1. 憲法改悪阻止および脱原発のために行動する。
2. 各公益事業の更なる充実に努める。
3. 公益事業を支えるためのファンドレイジングを推進する。
4. 次世代を担う会員を育てる。

# I 平和と人権事業



「留学生の母親」運動 対面の会



七夕 平和へのメッセージ

平和、非暴力、非核、非戦を訴え、人権が尊重され、すべての人が共に生きる世界の実現を目指し、社会で不当な圧力を受けやすい人々を支援する事業を実施した。各事業は、多くの方々からのご寄付、また助成金、補助金などの財政的支援と直接、事業に携わりご協力いただいた支援者の皆様により実施することが出来た。

## 1. 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

### a 家庭交流

1961年に始まった外国人留学生との家庭交流（「留学生の母親」運動）の要とも言える「組み合わせ（留学生と日本人家庭1対1の交流）」は、103人の留学生が説明会に参加し、71組の“母親”との組み合わせが誕生した。

「留学生の母親」運動の会員が集う「母の会」は2回行った。第1回は「留学生の話を聴いてみよう！あれやこれや」と題し、数名の留学生ゲストに勉強していることや母国の子どものために行っているチャリティー活動のこと、日本での就職のことなどを話してもらった。第2回はテーマを「こんな時どうしていますか？」とし、留学生との交流に関して困ったことや不安なことについて、会員同士で話し合う機会を得た。

12月には「留学生による日本語スピーチの集い」を開催した。7名の留学生が「私が大切だと思っていること」などについてスピーチをし、2名の留学生が審査員賞を受賞した。会場では引き続きクリスマス会が行われ、留学生と会員が交流を深めた。

「留学生資金（無利息貸与）」は、新規の申し込みはなかった。急病で入院した留学生に対する供与資金の申し込みが1件あり、資金小委員会で協議した上で供与を行った。

### b 留学生相談室

進学先や在留資格、宿舎探しやアルバイト、税金など生活上のあらゆる問題に対して電話や来室にて相談を受ける「留学生相談室」（1990年開室）は、相談件数1,671件（昨年度2,012件、日本語支援「火曜ルーム」参加者数含む）であった。来室者の内訳としては、中国32%、台湾13%、韓国3%、その他8%、日本（外国人と交流のある日本人からの問い合わせ等）43%となっている。その他、27カ国・地域の留学生からの相談があった。ショートホームステイと宿泊を伴わないホームビジットも実施し、19人の留学生が参加した。公開勉強会や日本語支援協力者勉強会も行き、留学生を取り巻く現状の理解等に努めた。

### c 日本語支援

「留学生談話室」（1979年開室）は外国人来室者が494人（昨年度422人）だった。近年は留学生以外に、日本で仕事をする外国人の来室もある。

留学生が日本人ボランティアと一対一で個別に受ける留学生相談室の日本語支援「火曜ルーム」は、参加留学生が多い時期と少ない時期で差がある。来室述べ人数は387人（昨年度431人）となった。

1月には、日本語を学ぶ留学生や外国人を受け止めるボランティアのための講座を留学生談話室で行い、日本語ボランティアのあり方について考える良い機会となった。

## 2. 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金(1982年発足)は、日本で学ぶ、勉学に意欲的、かつ経済的に困難な外国人留学生に対し、留学目的が達成できるよう助成する。平和な社会の実現を目指して将来活躍する留学生を支援するため、12カ国・地域出身の101人の応募留学生の選考作業を行った。今年度の奨学生は、社会環境工学、建築学、製パン、製菓、ITビジネス、新聞学(ジャーナリズム)、国際関係学を学ぶ7人で、1人につき年額36万円を支給した。留学生は奨学金を得て、アルバイトを減らし勉学する時間を作ることができると、成績が上がり、次年度は別の奨学金を受給できるケースも少なくない。また、奨学生には奨学金を給付するだけでなく、奨学生報告会で成果の報告を聞き、「留学生の母親」運動のプログラムである卒業お祝い会への招待など、会員との交流の機会を設けている。

## 3. 中国帰国者日本語支援事業

### a 中国帰国者日本語教室

中国帰国者が日本に定着し、地域社会にとけこみ、自立した生活を営んでいくために必要となる日本語の基礎を習得することを目的に実施した。カリキュラム内容や授業展開、クラス編成などに関しては、中国残留孤児援護基金が運営する中国帰国者支援・交流センターと東京YWCAの講師会が連携を図り、情報交換をおこない、日常の授業に生かした。

\*この事業は公益財団法人中国残留孤児援護基金からの委託金により実施した。

### b 日本語サロン

日本語サロンは、日本語教室で学んだ高齢の帰国者を対象に日本語の運用力を身に付け、より社会参加をうながすことを目的に実施した。授業の進め方の進度により3つのグループに分け、年間30回開催した。日本語教室の講師による指導と話し相手のボランティアのこまやかな対応によって、学習者の日本語の理解を高めることができた。また、秋には学習者同士、講師、ボランティアの交流会を開き、中国帰国者が太極拳や餃子作りの指導者役となった。

## 4. 平和をつくるキャンペーン

### a クリスマス

クリスマスの季節は“平和へ想いをよせ、祈り、求めるとき”と位置付け、クリスマスキャンペーン「Christmas for Peace 2013」を開催した。メインイベント「Peace Maker's Day」では、原発と自然エネルギーについて考える映画『ミツパチの羽音と地球の回転』の自主上映会と参加者同士による分かち合いの時間を設け、参加者一人ひとりが考え理解を深めた。その後、聖書からクリスマスの意味を聴く開会礼拝、平和を願うパフォーマンスの発表と続いた。ロビーでは賛同NGO/NPOが13団体出展し、来場者をはじめ、社会問題を考える仲間の情報交換の場となった。ステージでは、特別出演の「全日本おばちゃん党」と福島原発事故後、被災地への取材を重ねる芸人「おしどりマコ・ケン」のプレゼンテーションに多くの聴衆が真剣に聞き入った。東京YWCA会員グループ「アステル」は原発をテーマにした寸劇を発表、「ハンドベル・グループ」は平和への願いを込めて演奏した。平和を希求する運動としてアピールし合い、関心のある一般の方々をはじめ、それぞれの活動で仲間を増やしていく場となった。

### b 非戦、非核、非暴力をともに考える学習会「憲法カフェ」

「平和主義・国民主権・基本的人権」の三原則をもつ日本国憲法をこれまでにない速さで改憲する動きがあるなか、改憲勢力に抗すべく、学習会「憲法カフェ」を7回実施し、のべ250名を超える参加者を得た。講師に弁護士、政治学や憲法学を研究する大学講師を毎回招き、多様な角度から憲法を学び、参加者一人ひとりが自発的に考え、憲法改悪に反対する力を強めた。

### c 他団体との協力

第19回「むさしの市民平和のつどい」は、11月の「むさしの市民平和月間」の催し物の一つとして開催された。平和を願う市民が実行委員会をつくり、東京YWCAもその一員として参加した。

「0422市民クリスマス」は、39回目の今年度も、電話局番0422の教会(超教派)、YMCA、YWCAが合同で開催し、「手をつないでいこう」をテーマに共に平和を希求した。

#### d HIV/AIDS 啓発のためのキャンペーン

今年度は具体的な取り組みは実施しなかった。

## 5. 平和と人権に関する人材育成事業

### a DV被害者の支援者のための支援

「DV被害者の支援者のための支援」プロジェクトは2009年度よりスタートし、暴力の被害にあった女性や子どもの生活再建と権利回復の支援を充実させるために、支援する側がよりよい支援を安定して提供することができるようにサポートすることを目的としている。過去3年間における開発を土台に、2013年度からは「つながる」「はかる」「まなぶ」の3つのアプローチから本格的に事業をスタートした。

「つながる」では、支援者サロンを毎月第1・2金曜日の夜に計20回開催した。支援者のニーズである「癒し」と「学びを深める」ことができる場として、呼吸法やミニカウンセリング・トレーニングなどのプログラムを提供した。「はかる」では、昨年度まとめた「よりよい支援のための指標」の精度をあげるため、武蔵野大学大学院人間社会研究科小西聖子研究室と共同でアンケート調査を行った。「まなぶ」では、行政や社会福祉法人、民間団体など幅広い支援現場への講師派遣を計15回行った。内容は、DV被害者支援の専門研修から、電話相談を始めるための研修、高齢者支援の現場スタッフに向けたDV研修、スタッフ自身のセルフケアなど、各現場のニーズに沿った研修を提供した。また、主催事業としては「DVを経験した女性と協働する支援者トレーニング」(2日間/計14時間)と「仲間同士で支え合うピア・スーパービジョン講座」(年2回/各3時間)を開催した。

広報活動の一環として、公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会が行った研修とシンポジウム開催への協力をはじめ、国立女性教育会館主催の研修にて事例発表、NPO法人サービスグラントのプロボノ・サービスを利用したパンフレットの作成などを行った。

《助成金》

\*東京ウィメンズプラザのDV防止等民間活動助成事業であるアドバイザー派遣事業を受けて、支援者支援トレーナーのスーパービジョンに活用した。

### b インターンシップ

6月から12月までインターンを2名受け入れ、DV被害者支援のことをはじめ、日本における男女共同参画の現状について事業に関わりながら学びを深める場として提供した。

## 6. NPO/NGO団体への語学支援

東京YWCA国際語学ボランティアズILV(いるぶ)は、英文資料を活用したい、情報を世界に発信したい、というNPO/NGOからの依頼を受け、英語に関する翻訳・通訳を行っている。昨年度、ボランティアとして参加したい人向けの情報だけでなく、支援を必要とするNPO/NGO向けの情報もホームページに掲載するなど、広報を工夫したところ、依頼が急激に増加し、今年度は計31件(昨年度11件)の翻訳・通訳を行った。翻訳・通訳の依頼と同様に、今年度はボランティア会員の人数も増えたため、分量の多い翻訳依頼なども積極的に引き受けることができた。

内容としては、被災地支援関連のものが最も多く、その他には子どもの支援や難民支援に携わる団体などからの依頼を受けた。質の高い翻訳・通訳を行うためには、問題の背景を理解することが大切であると考え、翻訳の依頼元でもある災害時緊急支援団体の広報担当者を招き、話を聞く会も実施した。また、翻訳技術の向上のために研修会を行い、英日翻訳のコツを学ぶ機会を得た。

## Ⅱ 青少年育成事業



農家で社会体験！（中学生スーパーチャレンジ・ガールズキャンプ）



学習中にちょっと一休み（学習支援「いちごの部屋」）

青少年育成事業は、子ども達が他者と共に生きるグローバルな視点をもった人として全人格的に成長できるよう、教育キャンプ等を通して今年度も自己肯定感、自発性、創造力、社会性、持続力、豊かな感受性を育むことを目的として事業を展開した。

すべての事業は、ボランティア、専門指導者によって無事実施することが出来た。すべてのご支援に心より感謝したい。

### 1. 教育キャンプ

夏のキャンプは、多様な体験プログラムとグループワークによって子どもたち一人ひとりに内在している可能性を引き出すことを目的に、幼児から中学生を対象に発達段階に合わせて3種類のキャンプを東京YWCA野尻キャンプ場で実施した。中学生キャンプは80周年を経てミッションを問い直し、2013年度より対象を女子のみとし、女性のリーダーシップ養成を目的とした。キャンプ場のある信濃町内での3日間にわたる社会体験プログラムを実施。農業体験、博物館での手伝いなど4グループに分かれて行い、1日の終りに振り返りの時間を持った。最終日に受け入れ先の方々を招き社会体験報告会を行った。町の方々やキャンパー同士の交流、自由な時間での語り合い、カヌーなどの野外活動を通して、キャンパーは自信を持ち、自分の関心や適性に気付き、リーダーシップ養成につながった。また、大切な仲間を得る喜びがあったことが感想から読み取れた。

小学1から3年対象の「わいわいキャンプ」には、ご寄付により福島県の子ども達3人も招待することができた。小学4から6年対象の「チャレンジキャンプ」では、今夏、水球スポーツ「カヌーポロ」も導入し、水のプログラムがさらに充実した。長野県の小学生を対象とした1泊2日の「子どもキャンプ」には63名が参加した。

ファミリーキャンプは子ども達に「ダメ」と言わないことを共通のルールにし、大人も子どももゆったりとしたペースでキャンプを楽しみ、同時開催となった福島県からの家族対象のリフレッシュステイとも交流した。

冬には菅平高原スキー場で小学生対象と中学生対象のスキーキャンプを行った。昼間は自然の厳しさを体感しながらスキー技術を習得し、宿での時間はグループ毎にスタンツに知恵を絞り、最終日の夜にスタンツ大会をするなど、集団生活の中で一人ひとりが貢献し、グループとして一つのものを完成させる体験をした。

\*「子どもキャンプ」は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」からの助成金を運営費の一部として実施。

### 2. 体験学習

#### a 子ども会

国領センターで実施している「子どもクラブもたろう」には小学生25名が登録し、8回の月例活動を行った。小グループでの活動を丁寧に重ねたことで、メンバー間の関係性を深めることができた。

武蔵野センターで実施している「子ども会」では、月例活動7回とお泊り会1回を行った。25名の小学生が登録。内、新規参加者12名、兄弟姉妹の参加が7組あった。在校数は9校だが、約半数にあたる13名が同じ学校からの参加であった。そのため、グループ分けやプログラムを工夫し、家庭や学校とは違う人間関係や環境作りに努めた。子ども達は新しい環境の中で互いの個性を



認め合い、みんなで一緒に作り上げる楽しさを体験した。

ボランティアリーダー養成は、年度初めに講師によるリーダー研修会を実施し、また、活動日毎に活動の目的共有と活動評価を丁寧に行った。リーダー確保が課題であったが、新たな試みとして、卒業を控えた高校3年生を対象にボランティア体験受け入れを行い、2名が参加した。

#### b 親子で楽しむアウトドアライフ

東京近郊で、親子で四季折々自然に親しむ、日帰りプログラムを6回実施した。神奈川県をフィールドとした海や川のプログラムに加え、NPO 法人花咲き村の協力を得て、奥多摩での山里生活体験のプログラムも行った。自然の生き物や環境を多角的に観察し、自然への興味を引き出し、大切に思う心を育てることに力を注いだ。

\*この事業は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」からの助成金を運営費の一部として実施した。

#### c 青少年水泳教室

心身の健全な成長を目指し、東京YWCAのプールにおいて年長児から中学生を対象にスイミングとシンクロの講習を行った。

ジュニアスイミング(小学1～4年男女)は、一人ひとりを丁寧に見ながら各種泳法の習得を目指し、水の事故の増える夏前には着衣泳を実施し水の安全についても指導した。1年を通してほぼ満員で、夏の短期講習では年長児の参加希望者が増加したため、「平泳ぎ」と「年長児対象」の3日間の講習2クラスを増設した。またクラス在籍の3、4年生を対象に、ダイビング(板飛び込み)の講習を12月と3月の2回行った。専門家の指導の下、3.5メートルの深さのあるプールならではのスポーツを経験する機会を設けた。

ジュニアシンクロ(小学3～中学女子)は、平均在籍8名で、每期最終日には練習の成果を保護者らの前で発表した。ティーンズスイミング(小学5～中学女子)は、平均在籍7名で、年齢も学校も異なる子ども達が交流しながら泳力の向上を目指した。

#### d 創作活動・異文化理解

武蔵野センターで行う創作活動では、子ども達一人ひとりの感性と創造性を引き出し、豊かな表現力を育むことを目的に3歳から小学生を対象とした「絵と工作」(3グループ、各月2回)を行った。子ども達は、光る絵地図や版画など講師が与えるテーマ、自分たちが決めるテーマで、制作に集中した。3月には武蔵野センター1階ロビーにて「YWCA子どもアート作品展」を行い、個性あふれる作品に多くの来館者が感動を得る機会となった。

異文化理解は、年間32回のコミュニケーション英語の学習に加え、7月「ネパールと布」、10月「ハロウィン」、12月「クリスマス」をテーマに異文化理解プログラムを行った。

### 3. 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子ども達への日本語・学習支援「いちごの部屋」は、6年目を迎えた。活動日は毎土曜日。東日本大震災直後は参加者が減少したが、入国者の増加等により参加者が増加した。安心して楽しく学習出来るよう、ボランティアがマンツーマンで学習を支援した。保護者への支援も要望に応え頻繁に行った。

民間助成金を得て、案内パンフレット改訂版と「いちごの部屋だより創刊号」を発行。武蔵野・三鷹地域の各小中学校・幼稚園・教育委員会・民間団体等への広報に努めた。また、課題であった教育委員会や学校との連携が始まった。武蔵野市帰国外国人相談室「すてっぷルーム」とは、初めて連携会議を行い、今後のより良い支援と連携に向けて一歩前進した。

秋には武蔵野市の後援を受けてボランティア基礎研修講座を実施。協力ボランティアの開拓および継続研修に力を注いだ。

\*この事業は、公益財団法人俱進会からの助成金を運営費の一部として実施した。

### 4. 青少年リーダー養成

青少年活動に関心のある人また現在かかわっていてスキルアップを必要とする人を対象に、宿泊トレーニングを含め全5回の研修を実施した。前半は、例年行っている「グループワーク」に加え、「子どもの活動と水の安全」、「日本赤十字社の救急法基礎講習・救急員養成講習会」と、安全をテーマとした内容で実施した。水の安全では実際にプールを使用するなど、実技を中心に、現場で活用できるスキルを獲得した。後半は日本キャンプ協会との共催で「スペシャルニーズキャンプの意義」と「ジェンダーと子どもの心」をテーマに実施した。

リーダーがキャンプ場の自然環境への理解とスキルを身に着ける森林ワークは春秋の2回実施。今年度より3か年、林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を受けることになり、計画を策定した。

### Ⅲ 女性の健康事業



ボランティアのサポートで楽しく水泳（肢体不自由者水泳）



クリスマスパーティーでもエクササイズ（アンコア）

この事業は、運動の機会を必要とする女性の心身の健全育成を図ることを目的としている。適度な運動習慣は、生活習慣病の予防や心身の健康の保持増進、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に有効であると言われている。運動経験が無い、高齢である、身体に障がいがある、病後であるなど、運動の機会を得にくい状況にある人でも安心して運動に取り組めるよう、対象者のニーズに合わせたプログラムを提供し、継続できるようサポートした。

今年度も肢体不自由者水泳（あひるの会）や発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳（かめさんくらぶ）、乳がん術後の女性のためのプログラム（アンコア）への寄付をはじめとして、多くの方々よりご支援を頂いたことに心から感謝したい。

#### 1. 女性の健康づくり

サポートコースは、プールやジム、スタジオでの運動を安全に効果的に続けていくことにより、体力の維持・向上や生活習慣病の予防などそれぞれの目標を達成できるよう一人ひとりを支援した。定期的に体組成のチェックと運動カウンセリングを行い、目的や健康状態を確認しながら無理のない運動の計画を立て、運動や生活習慣についてアドバイスした。運動習慣が定着して、ライフスタイルをより健康的に変えていく人や、肥満を改善するなどの成果を上げる人がいる一方で、運動を続けられずにやめしてしまう人も多く、運動を続けるための動機づけやきめ細かい対応が引き続き課題となっている。

健康セミナーは、7月に「中高年女性の正しい脂肪の減らし方」で肥満の改善策、11月には「骨盤周りのセルフケア」で尿もれ予防のエクササイズ、3月には「姿勢動作を見直して痛みにくいキレイな体をつくる」で腰や膝に負担をかけない姿勢や動作について専門家による講義を実施した。中高年女性に焦点を当てたテーマだったことから参加者も多く、熱心に学ぶ姿がみられた。正しい情報を得て運動の必要性について理解を深める機会となった。

からだところの健康相談は、それぞれ隔月で実施した。臨床心理士によるところの健康相談は、ニーズが高く利用は安定している。からだの健康相談は、気になる体調や介護についての相談に看護師が応じた。時間を30分に延ばしたが、昨年に比べ利用は少なかった。

サポートコースの在籍者は月平均278人で、昨年度に比べ新規登録が減り退会が増えたため在籍は伸びなかった。運動の機会を必要としているながら実践に至っていない人への周知を図り、利用者の増加に努めていきたい。

#### 2. 疾患後の女性の健康づくり

##### a 乳がん手術後の女性のためのプログラム（アンコア）

乳がん手術後の女性を対象に、術後の腕や肩の運動障害の改善とQOLの向上を目的とする「アンコア」を2期実施した。全8回のプログラムは、プールとスタジオのエクササイズ、術後の生活に役立つ講義と参加者間の情報の共有を組み合わせたもので、講義は、乳腺外科医、リンパセラピスト、栄養士、アロマセラピストなど各分野の専門家によるカリキュラムが組まれた。参加者からは、体力の回復やリンパ浮腫の改善が見られたこと、参加者同士思いを共有し、励まし合えたことで不安な気持ちが

前向きになった等の感想が聞かれた。事後のアンケートでは、多くの参加者が同じ病気を持つ人と交流が持てることや、運動と講義の多彩な内容に魅力を感じて参加したと答えている。また術後にどんな運動をすれば良いか分からなかったため参加した人やプールに入りたいと参加した人も多く、運動への取り組みに前向きな人が多かった。修了後も運動を続ける人が増えており、修了者を対象にした運動プログラムへの希望も出ている。今年度は、3期実施を予定していたが申し込みが少なかつたため2期間の実施となった。参加者の年齢層は60代が減少し、40代から50代の若い層が増えてきており、就労しながら治療する人も多く、8週間続けての参加は厳しいとの声もあった。また、医療技術の進歩により術後の身体への負担が軽減されてきていることや、乳がんに関する情報が以前より得られやすくなった環境の変化も参加者減少の要因の1つと考えられる。お互いの顔が見える少人数のグループ、プールでの運動、専門家から直接話を聞くことができるなど、アンコアの価値が必要としている人に伝わるよう工夫しながら周知を図りたい。開講から9年目を迎え、延参加者は300名となった。修了者を対象に行ったクリスマスパーティーには54名が集い、交流を楽しんだ。

#### **b 腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動（ディープウォーターウォーキング）**

腰や膝に痛みや不具合を抱える人が、日常の生活動作が楽に行えるようになることを目的に、水中運動のクラスを2コマ実施した。足の着くところでの水中歩行と水深3.5メートルの深さを活用した水中運動を継続することにより、下半身や体幹の筋肉を強化し柔軟性を高めて、膝や腰への負担を軽減することを目指した。6月には、理学療法士を交えた指導者のワークショップを実施して指導内容の検証を行った。下半期からは、体幹をより意識できるよう浮き具を使用した運動に工夫を加えたことで、参加者の理解も深まり運動効果が高まった。年間を通してほぼ満員で、継続者が殆どだった。各期開始時には姿勢チェックを行い、終了時には効果を確認するアンケート調査も実施した。アンケートからは、「以前より階段の昇降が楽になった」「関節の痛みが和らいできた」「姿勢が改善した」等効果を実感している人が多かった。

### **3. 障がい児・者の健康づくり**

#### **a 肢体不自由者水泳（あひるの会）**

1957年より肢体不自由者が水泳を通して喜びと自信を得られるよう、競技ではなくレクリエーションの一助として行っている。14歳から63歳までの参加者をボランティアがマンツーマンで介助し、水泳指導を行った。追加募集により参加者が2名増えたが、けがや体調不良により年間を通しての参加は少なかった。学校ではスポーツや運動する機会はあるが、成人が運動できる場は限られているため、参加者同士で交流しながら運動を楽しむ貴重な機会となった。ボランティアの養成にも力を入れ、4月には勉強会、9月には検討会を行い、参加者の障がいの様子や介助、指導方法などについて共通理解をもちながらより良い支援を目指した。

\*この事業では、社会福祉法人東京都共同募金会からの助成金を運営費の一部として実施した。

#### **b 発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳（かめさんくらぶ）**

発達に遅れや偏りのある女兒が、プールでお母さんと触れ合いながら水泳を習得することをめざし、隔週土曜日に年20回の講習を行った。子ども一人ひとりの成長の段階や個性に合わせた指導を丁寧に積み重ねた。2010年のスタート時からの継続者が多く、年間を通して満員だった。殆どの子どもがプールを楽しみに通ってきており、少人数で回数を重ねる事で仲間意識も芽生え、社会性を育んだ。泳力が向上し学校のプールの検定で級を上げた子どももおり、泳げるようになる達成感は子どもが自信を持つことにもつながっている。子どもたちの泳力の差が出てきたため、泳力別のグループ指導の時間を加えて対応した。また、母親同士も女子の母親ならではの悩みを共有しながら交流を深めた。母親が入水できないときのサポート役としてボランティアを募集し、2名が加わった。プール内での子どもの補助や声掛けにも徐々に慣れ、次年度も継続の予定。

#### **c アクアサポート**

1人ではプールでの運動が難しい、身体に障がいのある人や高齢者のためのマンツーマンプログラムとして実施した。4月から7月まで近隣の病院からの紹介で、整形外科手術後のリハビリを目的に、水中運動のサポートを希望した1名を受けとめた。定期的な利用者は1名で、ほぼ毎週利用し4年目となった。水泳未経験でスタートしたが、自分に合った泳ぎ方を少しずつ習得し、泳げる楽しさを体感している。

## IV 社会福祉に資する事業



「絵本であそぶ」メンバーの本読みに聞き入ります（ケアサポート板橋）



自然がいっぱいの園庭で虫捕り（まきば保育園）

板橋センターは、キッズガーデンが昨年度の10周年記念を経て新たな年を迎え、また、国領センターでは、認可保育園として「まきば保育園」が開設し、文字通りまきばのような広い庭を得て数々の子育て事業がスタートした。ともに近隣との新たな関係作りを行っている。社会福祉事業では、地域行政とのかわりにおいて、板橋区補助金、調布市補助金・委託費を受ける一方で、地域に資する事業の充実のため、申し入れや提言を行った。また、法や行政の枠組みによらないYWCA独自の事業は、多くのボランティアによって実施され、ご寄付によって支えられた。

### 1. 療育事業（東京YWCAキッズガーデン）

板橋区内で行っている東京YWCAキッズガーデンは、月1回外部から専門家を招き、定期的なスーパービジョンを行うことで職員の専門家スキルが磨かれチーム力がアップ、療育の質が高まってきている。また、親の会・ケアサポート板橋等との連携により、療育内容に深まりが見られた。併用園、就学先との連携を強化し、職員間で指導についての理解を等しくした。3年目を迎えたキッズガーデン主催の統合保育研究会では、地域の保育士・幼稚園教諭とともに、相互に刺激のある学びの場となった。法制化により区内放課後等デイサービスが急増しているが、主に土曜日に行っている「シマウマくらぶ」は充実した内容で利用者から高い評価を得ている。

公益財団法人愛恵福祉支援財団との共催で2年目を迎えた指導者研修としての『発達障がい児者を支えるーライフステージにそった支援の課題とその取り組み』のセミナーでは、成人期に焦点を当て開催した。参加した個人・団体とそれぞれが地域を越え多くの人につながる機会にもなった。

区内発達支援ネットワークメンバー、特別支援学校の協議会委員等として、地域の福祉・教育分野との連携協力関係の強化をすすめた。

\*児童発達支援事業（乳幼児対象）は運営費の一部を、板橋区の心身障がい児療育訓練事業補助金より補助を受け実施した。

### 2. 発達支援相談事業および発達支援体験事業

板橋と国領の二拠点でおこなっている発達支援相談、発達支援体験事業では、板橋拠点にて料理・クラフト・音楽療法などのサポートプログラムを、国領センターでは、音楽・陶芸・サッカー活動と夏休み恒例のデイキャンプをそれぞれ実施し、子ども達一人ひとりの成長を促すことができた。相談事業は板橋センターにて継続した。

### 3. 障がい児家族支援体験事業

1) きょうだい児のための「障がい児きょうだいの会『きらりんこ』」

今年度も、障がい児のきょうだい児の居場所の一つとして、同じ立場の友達とボランティアリーダーとともに心行くまで遊び交流するプログラムを行うことができた。少しずつ新メンバーが増えてきている。

#### 2) 母親たちのための「障がい児きょうだいの会『いどばた』」

障がい児ときょうだい児を育てる母親たちの情報交換の場であり、語り合いの場である「いどばた」は、板橋・国領拠点で定期的に関かれ、子どもたちの成長とともに変化する課題について話し合う場となった。立ち上げメンバーが後輩の母親たちをサポートする場にもなった。

#### 3) 家族が参加するプログラム「障がい児きょうだいの会『ふぁみりんこ』」

国領センターでバーベキューと交流プログラムを行い、日ごろきょうだいの会を支えているリーダーが共に参加した。年一回のプログラムであるが、家族が心おきなく集い、楽しめる場として大事な会となった。

#### 4) 親子参加型の自然体験プログラム「いっぽの会」

自然体験と様々な家族の出会いと交流を目的としたプログラムが、天候にも恵まれ予定通り実施された。障がい児のいる家族もいない家族も共に参加し、リーダーの関わりによってつなげられ、豊かな時間を過ごすことができた。大学の実習・体験をきっかけに新たなリーダーとして加わった学生もおり、今後の広がりが期待される。

\*これらの事業のうち、「障がい児ときょうだい・家族のチャレンジキャンプ」について、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」からの助成金を運営費の一部として実施した。

## 4. 障がい児・者介護事業

ケアサポート板橋では障害者総合支援法に基づき、障がい児・者のべ159人の利用者に対し月間平均136時間程度のサービス提供を行った。内容は利用者自宅において家事援助や身体介護を行うものと、利用者（主として児童）を学校やバスポイントから自宅や学童クラブ等へ送り届ける地域生活支援・移動支援に分けられる。居宅介護や移動支援のサービス提供により、利用者の社会参加の機会が増え、生活の自立度が高まり、介護する家族の介護負担軽減になった。

## 5. 高齢者介護事業

ケアサポート板橋では要支援、要介護状態にある高齢者に対して、介護保険法に基づく「居宅介護支援」「訪問介護」「通所介護」の3つのサービス提供により、日常生活の課題の解決とともに生活の質が向上するように支援を行った。

「居宅介護支援」は年間延べ356人に対してケアプラン作成を行い、希望する在宅生活の継続や必要な施設入所につながるように支援を行った。1月からはケアマネジャーが2名となり、より機能的に動けるようになった。「訪問介護」は、自費利用も含めて1回の訪問につき平均利用時間は1時間を少し下回る状況であり、ヘルパーは限られた時間の中で効率よくサービスを行うことが求められている。「通所介護」は実績改善が大きな課題であったが、月曜日から金曜の週5日で延べ1625人へのサービス提供を行い、昨年比で2割増となった。引き続き利用者増につとめる。キッズガーデンの子ども達との日常の交流やセンターで活動するボランティアとの連携がさらに深まり、プログラム内容が充実してきている。

## 6. 高齢者電話相談事業（シニアダイアル）

中高年の「孤独な時」の身近な一人になることを目的とし電話相談を行う「シニアダイアル」は、発足して16年目を迎え、今年度は、昨年度の新人研修修了者に加え、38人のボランティア相談員で相談活動を進めた。新人相談員養成講座は秋に実施し、新たに相談員として2名が加わることとなった。年度初めには、活動案内パンフレットを作成し、広報活動に力を注いだ。月例研修会においては、専門家の指導の下、相談員としての質の向上に努めた。3月の研修会は、新たに変わる2014研修実習やシニアダイアルの原点、皆でつくる電話相談室等のテーマにより開催。学び合う機会となった。相談員の自主的な学習会「ダイアル広場」は毎月1回開催した。相談員活動を支えるために、先輩相談員によるスーパーバイザーチームが発足。メンバーシップによるサポート体制が整った。

## 7. 介護予防体験事業

高齢者サロン「ティーポットサロン」は、高齢者が地域で交流の場を持ち、豊かな時間を過ごすことで心身の健康を維持することを目的としている。今年度も調布市や地域からの期待に応えて3クルールのグループ活動を行った。特に「男の手料理」は好評で満足度が高く、今後も継続して行う。ティーポットサロンは毎回定員を超える応募があり、地域のニーズを改めて感じている。

\*この事業は調布市健康づくり事業の補助金を得て実施した。

## 8. 統合保育事業

「まきば幼稚園」は3月に22名の子ども達が巣立ち、幼児教育の幕を下ろした。今までのあゆみをたどり、感謝する『まきば幼稚園感謝の会』にはおよそ300名が集まった。

一方今年度開設の『まきば保育園』は、90名定員のところ81名の子ども達を迎え入れ、職員が力を合わせ、初めての認可保育園事業に取り組んだ。

## 9. 子育て支援相談事業

国領、武蔵野の2拠点において、0歳から就園まえの親子が過しやすい空間を作り、楽しいプログラムの提供と地域の親子を受け止める場の設定に力を注いだ。子育ての相談を受ける一方で、特別プログラムとして、母親向けにリラクゼーションヨガ、お母さんと赤ちゃんのための音のワーク、ミニコンサート、クリスマス会などを実施し、地域の子育て支援に寄与した。

## 10. 学童保育事業

調布市立わいわい学童クラブは、調布市から委託を受けた公設民営学童クラブとして5年目を終えた。日常生活を大切にすることが基本だが、親子交流会、お泊り会、夏祭り、庭木工作、国領センターオータムフェアへの参加、庭の草木を使った染めものと巾着作り、遠足、卒会・進級を祝う会、児童館祭りや学童児童館対抗サッカー大会参加、交流ドッジボール大会等プログラムが充実し、行事への家族参加率も高かった。昨年度に続き重度アレルギー児を受け入れたが、市内で一昨年度アレルギー児の大きな事故があったため、大規模な研修に出席し、対応を熟慮しながら個別のニーズに対応した。障がい児を含め、在籍児一人ひとりにとって学童クラブが第2の家庭になれるよう、集団と個のバランスをとりながら育成に取り組んだ。

調布市学童保育連絡協議会が実施した全学童へのアンケートでは、今年度も満足度が高いという評価を得た。次年度につなげたい。

\*学童保育をはじめとする各事業が行われている国領センターでは、環境整備費の一部に、調布市の保存樹木等せん定補助金、および保存樹木補助金を受け、敷地内の環境整備を実施した。

# V 非営利機関・団体への施設貸与事業

この事業では、東京YWCAと共通性のある目的を持つ非営利の機関、団体に、東京YWCA会館3階の全10室を貸与している。今年度からは2階フロアの3室も賃貸することとし、4月から入居者の募集を開始した。決定までに時間を要したが1月中旬までには全室が契約に至った。財団、社団、社会福祉法人、NPO法人などの9団体が入居している。東京YWCAの資産である会館を活用し、それぞれの団体が目標達成に向けて活発な事業を継続できるよう場を提供している。

また、地下から2階までの部屋を時間単位で貸出したところ、年間125件の利用があった。交通の便が良い点や用途に応じて大小多様な部屋があることで重宝に用いられ、徐々に利用件数も増えてきた。ホールを半面に区切ったり、利用時間の単位を細かく設定するなど、利便性を高めて、予算に限りのある非営利団体でも利用できるよう活動を支援している。

# VI 東日本大震災被災者支援事業

東京YWCAで持っている専門性とネットワークを使い、東京YWCA全体で被災者支援に取り組んだ。2013年度に計画した事業は、個人、団体、企業からのご寄付と人的支援、助成金によって、すべて実施することができたことに改めて感謝したい。

## 1. 被災地の子ども支援

**a 福島の親子を対象とした転地保養プログラム**：放射線量の比較的高い地域に住む子どもの体内被曝低下を目的とした転地保養プログラムは、夏は東京YWCA野尻キャンプ場で、冬は都内で実施した。とくに冬は定員の倍を超える申し込みがあり、ニーズが高いことがわかった。参加者同士の語り合いの時間やアンケートから、放射能への不安は、夫婦間、世代間に違いがあり、子育て中の母親は、周囲の理解が得られず疎外感を抱いていることがわかった。参加者が福島に戻ってから、だれかが寄り添い、なかまを得ることが必要なのではないかと。そこで計画にはなかった転地保養プログラム参加者のリユニオンを2月に福島市内で開いた。また福島のNGO等と会議を持ち、福島での子育て支援の場について聞き、協力体制等、次年度への課題整理を行った。

\*夏のプログラムは公益財団法人日本YWCAから、冬は独立行政法人福祉医療機構の助成金と個人、団体、企業のご寄付で実施。

**b 福島県から東京近郊に避難している母子支援「♪福福カフェ♪」**：2012年度に武蔵野市、武蔵野市民社会福祉協議会と東京YWCAが協議体をつくって実施した福島から東京近郊に避難している母子を対象とした子育て支援の場「♪福福カフェ♪」を東京YWCAが引き継ぎ、武蔵野センターで実施した。\*この事業は、独立行政法人福祉医療機構の助成金で実施した。

**c 福島県沿岸の町「新地町」の小学生を対象としたキャンプ**：第3回を仙台市郊外のキャンプ場で、3泊4日で実施した。震災から3年がたち、子どもたちは落ち着いてきている様子がかがえた。運営するボランティア、スタッフは、子どもたちの気持ちに寄り添うことを第一にプログラムを組んだ。この事業は、新地町教育委員会、NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会、明治大学、上智大学、東洋英和女学院、三菱商事株式会社の協力によって実施した。

## 2. 被災地との連帯

**a 被災地訪問スタディーツアー**：10月に1泊2日で実施した。放射能と津波災害にテーマを絞り、福島市内と福島県新地町の2か所を訪問した。福島市内では、放射能に不安を感じながら市内にとどまった高校教諭や子育て中の母たちから話を聞き、農家を訪ねた。一方新地町では、復興の進捗状況を行政の立場から聞きながら沿岸部を回った。

**b 仮設住宅の方々と交流**：被災地訪問スタディーツアーでは、今回も広畑仮設住宅での交流会を実施した。高台移転が決まったが、はじまってからの不安も聞かれた。全世帯が移転するまで、仮設住宅の支援をすることをプロジェクトでは考えている。

**c 広域避難者のお茶会と専門家相談会**：東京都には東日本大震災によって、7千人余りが避難している。6月の第3回東京YWCA東日本大震災支援バザーは、被災者支援事業のためのチャリティー、被災地応援の産直とともに、広域避難者支援のためのお茶会と専門家相談を実施した。一つの会場で行うことの効果が参加した専門家から評価され、10月の武蔵野センターリサイクルセールでも同様の企画を実施した。\*aは独立行政法人福祉医療機構からbの一部は福島県の寺子屋事業の助成金を受けて実施した。

**d 市民ボランティア講座**：東京近郊避難者を講師に「3.11から2年半経ち…避難生活から見えてくること～対話から次の一歩へ～」と題して、風化していく現実を見つめ、市民の一人として私たちにできる一歩を考える機会として実施した。

**e 東日本大震災の風化を防ぐフォーラム**：福島県新地町と協定を結んで復興に取り組む明治大学との共催で新地町にフォーカスし、震災を忘れない取り組みとして実施した。新地町の中学生、生活支援相談員、NPOスタッフ、復興推進課職員の5人を招き、震災当初から現在に至る状況、被災地が求める支援について聞き、東京ができる役割をフロアとともにディスカッションした。

**f チャリティコンサート**：被災地の木でつくったバイオリンによるコンサートを実施した。

## 3. 関係機関との協力の構築

東京近郊に避難している人への支援は、武蔵野市、武蔵野市民社会福祉協議会、近隣大学と協力して実行委員会を組織し、ボランティア養成講座の実施、「♪福福カフェ♪」の運営を行った。また転地保養プログラムは、福島のNPO法人、社会福祉協議会に協力を依頼し、意見を聞きながらプログラムをつくったことで、参加者のニーズをつかむことができ、事業の成果につながった。

## Ⅶ 収益事業および共益的な事業

### 1. 不動産賃貸事業

法人が所有する施設の一部を、収益を目的に企業、団体等に貸与している。東京YWCA会館1階の一部および4階から8階のテナントフロアは満室の状況。会館の竣工から24年が経ち、トイレ、給湯室などの老朽と陳腐化で、テナント運営に支障が生じるため、9月に約1カ月間にわたって改修工事を実施した。エレベーター内の床や壁面もリニューアルしある程度的美観を保てるようになった。

東京YWCA会館および武蔵野センターでは、収益を目的として時間単位で「貸し会議室」を提供。会議、勉強会、記念式典など多様な用途で、年間284件の利用があった。近隣に貸し会議室が増えたことや、大手業者が充実したネット広告で集客を図っていることなどから、他との競合によりさらなる増収には至らない状況であった。

野尻キャンプ場内の「ゆかりハウス」ではフリーの宿泊客を受けとめ、延べ210泊の利用があった。キャンプ場を貸し切ってウェディングパーティを催すなど新たな施設活用の試みもあった。

### 2. フィットネスクラブ事業

収益を目的として運営する女性専用フィットネスクラブは、運動を行うにあたってサポートを必要としない女性を対象に「フリーコース」というメンバー制で受けとめている。利用者はプール、スタジオ、ジムにおいて、個人で自由にトレーニングをおこなひ、心身の健康増進と余暇の充実を図っている。10代から80代までと年齢層は幅広く、女性専用である点とYWCAのブランドイメージを評価して通っている人が多い。年4回のキャンペーン時に85名の入会があったが、それを上回る退会があったため、在籍数は前年度末比でマイナス7名の421名となった。転居、介護などやむを得ない事由での退会もあるが、入会しても運動習慣、クラブ通いが定着せずに短期間で退会するケースも多いため、その対策が急務となっている。価格設定の検討や、女性専用を生かして、男性のいる場では活動が制限されるイスラム圏の女性への広報を強化するなど、収益の確保につとめる必要がある。

「成人スクール」は、体力や運動能力の向上を目的とした週1回の講習で、水中ウォーキングや転倒予防プログラムなど、中高年者が無理なく参加できる講習が盛況であった。本事業収入の3割弱と大きなウエイトとなっており、定員充足率を高めるために、体験参加やスキルアップの単発レッスンを開催した。

プール、スタジオでのパーソナルレッスンは、成果を実感して継続的に利用する人が多く、年間630件と前年比140%の利用率となった。

### 3. クラス事業

生涯教育の視点に立ち、人格の向上や教養を深めるために各種の講座を行った。主には武蔵野センターにおいて、ボイストレーニング&コーラスを通年で開講。また「生活にうおい講座」と題して料理やアロマセラピーの講座も実施。クラスへの参加を機に新たな人が訪れ、学びや交流を通して、YWCAのさまざまな活動へとつながっている点は、地域に開かれたセンターとして大いに期待するところである。

### 4. 販売事業

各会館に設置している自動販売機や無人販売コーナーで飲み物や日用品を販売した。有料コピー機や公衆電話の設置によって来館者の利便を図るとともに、わずかながら収益を上げている。

### 5. 会員グループ（理解普及事業）

会員グループは4つの拠点合わせて72グループに515名が登録。各グループでの学び、運動、趣味、ボランティアなど、多彩な活動を通して、法人の目的と事業に対する理解を深め、法人の目的を実現する人を育てることを目指した。日ごろはグループ単位での活動となっているが、「グループのつどい」と題して一同が集まり、活動紹介や成果を披露する機会も持たれた。



## 数字・資料で見る東京YWCAの事業活動

### I 平和と人権事業

#### I-1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

##### I-1-a 家庭交流

##### 「組み合わせ」内訳(人)

会員	61
留学生	71

##### 「組み合わせ」の会員内訳(人)

新会員	8
2年目以上の会員	53

(その内、留学生2人担当 10)

##### 「組み合わせ」の留学生内訳(人)

国費生 (文部科学省)	16
日本語学校	24
専門学校	1
大学	16
大学院他	14

##### 留学生組み合わせ出身国・地域

国・地域	人数	男性	女性
中国	31	12	19
タイ	11	5	6
モンゴル	6	1	5
ベトナム	4	2	2
台湾	4	2	2
シンガポール	3	0	3
マレーシア	3	2	1
中国(香港)	2	2	0
インドネシア	1	1	0
インド	1	0	1
ブルガリア	1	0	1
ハンガリー	1	1	0
ネパール	1	1	0
チュニジア	1	0	1
UAE	1	0	1
合計	71	29	42

##### 留学生資金貸与

前年度より継続返済	1
新規	0
長期貸与	0
短期貸与	0

### 支援事業の年間プログラム

	延ボランティア数		延参加者数		合計
	会員	一般	留学生	一般	
留学生のための「組み合わせ」説明会	11	2	103		116
留学生組み合わせ申し込み受付	10		71		81
組み合わせ「対面の会」	91		77	5	173
第1回母の会「留学生の話を聴いてみよう! あれやこれや」	78				78
留学生による日本語スピーチの集い・クリスマス会	40		45	16	101
第2回母の会「こんな時どうしていますか?」	60				60
卒業お祝い会	25		24	2	51

#### I-1-b 留学生相談室

	開室日数	延ボランティア数		延相談件数/参加者数
		会員	一般	
留学生相談室	182	447		1,284
日本語支援「火曜ルーム」	43	246	160	387
日本語支援協力者勉強会	1			11
ショートホームステイ・ホームビジット		参加留学生: 19	受け入れ家庭: 15	

#### I-1-c 日本語支援

	延回数	延ボランティア数		延参加者数	
		会員	一般	外国人	一般
留学生談話室	40	342	310	494	12
日本語補習教室	40	1	5	8	
日本語ボランティア講座(ボランティア対象)	1	48			14

#### I-2 留学生助成事業

##### 「留学生の母親」運動奨学金

応募者数	101
------	-----

##### 支給奨学生内訳[国・地域別]

ベトナム	2
韓国	2
モンゴル	1
中国	1
台湾	1
計	7

I-3 中国帰国者日本語支援事業

I-3-a 中国帰国者日本語教室

	学期	期間	延回数	延時間	クラス数	在籍者数
昼間部	前期	2013年2月18日～6月28日	332	830	4	11
	後期	2013年7月22日～2014年1月30日	336	840	4	12

I-3-b 日本語サロン

延回数	延ボランティア数	延参加者数
88	225	1078

I-4 平和をつくるキャンペーン

I-4-a クリスマス

	回数	参加者数
キャンドルハウス講習会	2	16
青葉のまつり(Christmas for Peace 2013)	1	63
Peace Maker's Day(Christmas for Peace 2013)	1	150

I-4-b 非戦、非核、非暴力をともに考える学習会「憲法カフェ」

テーマ	回数	参加者数
「憲法改悪を許さないためにー都知事選を闘ってー」	1	77
「憲法9条を世界の主流に」	1	27
「日本国憲法の三つの顔」	1	55
「天皇を戴く国家」？元号、退位、わたしたちの自由	1	30
「女性の視点から政治と憲法を問う」	1	12
「憲法改正と国民投票法の問題点」	1	18
「秘密保護法の本当のねらい」	1	35

I-4-c 他団体との協力

	回数	参加者数
むさしの市民平和のつどい※	1	20
0422市民クリスマス※	1	300

※は他団体との共催イベントで参加者は概数。

I-5 平和と人権に関する人材育成事業

I-5-a DV被害者の支援者のための支援

	延回数	延参加者数		
		女性	男性	合計
DV被害者支援者のための「支援者サロン」	19	88	4	92
仲間同士で支え合うピア・スーパービジョン	2	15	2	17
DVを経験した女性と協働するための支援者トレーニング	1	16	3	19
2013事業報告会	1	11	0	11

I-6 NPO/NGO団体への語学支援

依頼案件	依頼者
ホームページの部分英訳	公益社団法人Civic Force
マンスリーレポートの英訳(vol.25～35)	公益社団法人Civic Force
ホームページの英訳	NPO法人 ネットワークオレンジ
Oiko creditニュースレター2013-1の和訳	Oikocredit Japan
ヨルダンウェブニュースの英訳	NPO法人 国境なき子どもたち
第4回アジア会議 レセプション・閉会式における通訳	おもちゃの図書館全国連絡会
第4回アジア会議 カントリーレポートの和訳	おもちゃの図書館全国連絡会
ピースウィンズ ジャパン スタッフインタビューの英訳	ピースウィンズ ジャパン
東日本大震災被災者の復興のために販売されている手作り品につけるメッセージの英訳	石巻おちゃっこ鹿妻
東日本大震災に関して作られた短歌を展示した際に、人々から寄せられた感想の英・和訳	NPO法人 文化交流工房
2014年世界祈禱日スライド説明文の和訳	日本キリスト教協議会(NCC)
東日本大震災被災地支援催事「東北マルシェ」プレスリリースの英訳	公益社団法人Civic Force
中学生18名の訪日時、防災教育センター見学の際の通訳	Meadowridge school (カナダ)
2012年度報告書の英訳	認定NPO法人 難民支援協会
国際イベント参加のための概要和訳	公益財団法人 日本宇宙少年団
国際シンポジウム参加者のための受付・案内通訳	認定NPO法人 言論NPO

	延回数	延講師	延参加者数
翻訳研修会	1	1	8

II 青少年育成事業

II-1 教育キャンプ

プログラム	日数	参加者数			リーダー・ 講師数	参加人数 合計
		男	女	合計		
野尻湖畔の半島にあるキャンプサイトで行う教育キャンプ						
小学1～3対象「わいわい」	3泊4日	10	17	27	16	43
小学4～6対象「チャレンジ」	4泊5日	3	13	16	15	31
中高生対象「スーパーチャレンジ・ガールズ」	7泊8日	0	13	13	21	34
小学1～6対象「子どもキャンプ」	1泊2日	35	28	63	13	76
中高生対象「春休みティーンズ・アドベンチャー」	2泊3日	6	1	7	4	11
都会から離れ、スキーと雪遊びを入れた教育キャンプ						
冬小学生スキーキャンプ「びよんびよんスキークラブ」	3泊4日	11	30	41	12	53
冬中高生スキーキャンプ	3泊4日	7	6	13	6	19
恵泉スキー(委託キャンプ)	3泊4日	0	20	20	4	24
他団体からの委託キャンプ <span style="float:right">*参加者は男女総数</span>						
上越保健医療福祉専門学校	2泊3日		34	34	6	40
北里大学看護専門学校	2泊3日		45	45	7	52
恵泉女学園大学	3泊4日		62	62	7	69
野尻キャンプ場を提供しYWCAのキャンプリーダーを派遣して行うキャンプ <span style="float:right">*参加者は男女総数</span>						
日本基督教団竜ヶ崎教会キャンプ	3泊4日		41	41	4	45
日本基督教団東京教区東支区中高生キャンプ	3泊4日		51	51	4	55
品川区自然体験教室	4泊5日		71	71	6	77
千葉ベタニアホーム旭ヶ丘母子ホーム	3泊4日		73	73	2	75
日本宇宙少年団未来MM分団	2泊3日		27	27	1	28
小布施サマースクール実行委員会	1泊2日		28	28	0	28
児童、青少年をもつ親子、ファミリー対象に、コミュニケーション向上を目的としたキャンプ						
森の探検ファミリーキャンプ	2泊3日	11	13	24	10	34
森の探検 春を見つけに出かけよう	2泊3日	11	12	23	2	25

II-2 体験学習

II-2-a 子ども会

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
子ども会(武蔵野)	8	41	143
ももたろう(国領)	8	68	158

II-2-b 親子で楽しむアウトドアライフ

プログラム名	日数	参加者数			リーダー・ 講師数	参加人数 合計
		男	女	合計		
初夏の海で磯遊び	1	11	16	27	5	32
山里生活ワクワク体験	1	7	7	14	2	16
きれいな川で水遊び	1	5	10	15	4	19
江ノ島たんけん	1	14	12	26	4	30
もちつきとネイチャーゲーム	1	12	26	38	7	45

II-2-c 青少年水泳教室

	延回数	延参加者
ジュニアスイミング(2クラス)	76	1673
ジュニアシンクロ	40	277
ティーンズスイミング	34	184
ジュニア短期講習(春1期、夏3期)	26	401

II-2-d 創作活動・異文化理解

		延回数	平均参加者数
創作活動	クラフト	—	—
	絵と工作	54	5
	アトリエ	—	—
異文化理解		180	3

II-3 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもとその保護者を対象にした日本語および学習支援

対象とする子ども	延回数	延ボランティア数	延参加者数(子ども)	延参加者数(保護者)
高校受験前まで	46	297	159	93

延参加者内訳

	人数
フィリピン人と日本人の両親を持つ子ども	6
フランス人と日本人の両親を持つ子ども	1
ロシア人と日本人の両親を持つ子ども	1
フィリピン人の保護者	4
フランス人の保護者	1
ロシア人の保護者	1

ボランティア研修会

延回数	延講師数	延参加者数(ボランティア)
3	3	44

II-4 青少年リーダー養成

	期間・日数	参加者数(宿泊ないものは延数)			リーダー・講師数	参加人数合計
		女	男	合計		
青少年・リーダーオリエンテーション	3回	8	2	10	0	10
青少年リーダー研修会	5回	14	4	18	3	21
リーダートレーニングキャンプ	2泊3日	4		4	3	7
スキーリーダートレーニングキャンプ	2泊3日	6	1	7	1	8
春のワークキャンプ	4泊5日	8	6	14	0	14
春の森林ワークキャンプ	2泊3日	2	5	7	2	9
秋の森林ワークキャンプ	2泊3日	0	5	5	3	8
合計		42	23	65	12	77

III 女性の健康事業

III-1 女性の健康づくり

サポートコース利用者数

延入会者	延退会者	在籍者
55	62	278

健康セミナー

テーマ	参加者数
中高年女性の正しい脂肪の減らし方	29
骨盤周りのセルフケア	33
姿勢動作を見直して痛みにくい体をつくる	35

健康相談

	延回数	延利用者数
からだの健康相談	6	6
こころの健康相談	5	8

III-2 疾患後の女性の健康づくり

	延回数	延参加者数
乳がん手術後の女性のためのプログラム	16	110
腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動	40	950

III-3 障がい児・者の健康づくり

	延回数	延参加者数	延ボランティア数
肢体不自由者水泳(あひるの会)	101	253	242
発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳	20	189	21
アクアサポート	48	48	

IV 社会福祉に資する事業

IV-1 療育事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キッズガーデン	延日数	9	21	20	23	17	19	22	21	16	19	19	19
	延実績利用者数	222	373	328	367	262	310	354	368	290	332	299	859
	延べ実習生人数	0	28	21	12	0	32	46	25	14	1	2	13
シマウマ	延日数	3	3	4	2	8	3	3	2	3	3	1	4
	延実績利用者数	24	28	42	15	49	29	31	13	27	30	9	35

※キッズガーデン:障がい児(乳幼児)療育、シマウマ:障がいのある小中高生のための土曜デイサービス

	延回数	延参加者数
保護者会(キッズガーデン)	3	20
連携訪問者(キッズガーデン)	31	31
研修セミナー	1	107
統合保育研修会	3	63

IV-2 発達支援相談事業および発達支援体験事業

		延回数	延参加者数
発達支援相談	子ども発達支援室(板橋)	12	68
	OT相談室(板橋)	-	-
	療育個別相談(国領)	-	-
	療育グループ(国領)	-	-
障がいのある子どものための体験学習	陶芸(小学生以上対象)(国領)	11	57
	音楽療法(幼児から中学生)(国領)	11	40
	サッカークリニック 1(小学1~2年生)(国領)	6	43
	サッカークリニック 2(小学3年生以上)(国領)	6	21
	カシオペイア(集団生活スキル 小学生~中学生)(国領)	2	22
	サポートプログラム(サッカー・料理・クラフト等。小学校低学年)(板橋)	4	29

IV-3 障がい児家族支援体験事業

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
家族サポート(きょうだいの会 こどもの会 きらりんこ)	6	45	108
家族サポート(きょうだいの会 お母さんのためのいどばた)	8	-	54
家族サポート(きょうだいの会 家族のためのふぁみりんこ)	1	-	35
親子参加型の自然体験プログラム(いっぼの会)	5	53	217

IV-4 障がい児・者介護事業 および IV-5 高齢者介護事業

訪問介護

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実績利用者数		42	40	45	40	37	36	38	40	39	46	47	43	493
訪問回数	介護給付	111	123	102	110	118	105	125	146	108	119	140	159	1,466.0
	予防介護	90	89	86	92	83	81	83	87	90	102	89	91	1,063.0
	支援費	166	167	152	147	116	125	145	111	117	127	133	100	1,606.0
	自由契約	12	21	25	13	14	11	11	9	11	4	5	3	139
	合計	379.0	400	365	362	331	322	364	353	326	352	367	353	4,274.0
訪問時間	介護給付	106.0	116.25	95	109	114.75	102.75	113.25	130.5	103.25	109.5	126.75	146	1,373.00
	予防介護	90.0	89	86	92	83	81	82	83.75	86.75	100	87.75	89.5	1,050.8
	支援費	165.0	176	159	152.5	123.5	128.25	137.5	109.5	121	130.5	126	112	1,640.75
	自由契約	15.5	34.25	31	19	18.25	14.5	13.25	15	18.25	6	8.5	6	199.5
	合計	376.5	415.5	371.0	372.5	339.5	326.5	346	338.75	329.25	346.00	349	353.50	4,264.00

IV-5 高齢者介護事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅介護支援	在籍利用者数	31	35	35	34	35	34	32	31	31	31	32	33	394
	利用実績数	29	31	34	29	32	29	30	28	26	28	28	32	356
	認定調査	1	0	3	1	9	2	1	0	0	0	1	2	20
通所介護	実績利用者数	129	137	132	150	139	138	144	136	131	134	123	132	1625
	開所日数	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	21	256
	延べ人数	129	137	132	150	139	138	144	136	131	134	123	132	1625
	ボランティア人数	3	5	5	5	3	5	5	5	5	5	6	7	59
実習生の受け入れ	大学生施設体験	0	0	0	0	1	1	4	0	0	0	1	0	7
	ヘルパー研修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

IV-6 高齢者電話相談事業

	延開室日数	延相談員数	年間相談件数
孤独なときの身近な相談相手としての電話相談(シアタイル)	271	533	2401

IV-7 介護予防体験事業

	延回数	延参加者数
地域に開かれた交流の場(ティーホットサロン)	28	488

IV-8 統合保育事業

	在籍者数	内容
まきば幼稚園(国領)	22	3~5歳児統合保育

	延回数	延参加者数
サッカースクール(国領)	-	-

まきば 保 育 園 ( 国 領 )	年齢	在籍者数(3月末)
	0歳	9
	1歳	15
	2歳	15
	3歳	17
	4歳	17
5歳	9	

IV-9 子育て支援相談事業(親子のフリースペース)

	延回数	延ボランティア数	延参加者数		
			乳幼児	おとな	合計
ほっとホットスペース(板橋)	-	-	-	-	-
たんぼぼ広場(国領)	18	54	136	115	251
バンビーニの会(武蔵野)	27	55	111	103	214

IV-10 学童保育事業

	延開所日数	延人数
わいわい学童クラブ(国領)	294	7393

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

非営利機関・団体優先フロア(賃貸契約)

貸与先団体数	9
--------	---

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	23	貸与件数	125
--------	----	------	-----

VI 東日本大震災被災者支援事業

被災地の子ども対象キャンプ 「新地っ子の夏休み」	日数	回数	参加者数			ボラン ティア 数	参加 人数 合計
			男	女	合計		
	3泊4日	1	20	15	35	26	61

福島県の親子のための リフレッシュステイ	日数	回数	延参加者数		
			子ども	大人	合計
	4泊5日と3泊4日	2	27	20	47

被災地訪問スタディツアー	日数	回数	参加者数		
			男	女	合計
	1泊2日	1	1	14	15

	日数	回数	参加者数
被災地とところをつなぐ 東日本大震災の風化を防ぐフォーラム ～福島県沿岸の町「新地町」の取り組みを事例として～	1日	1	138
第3回東京YWCA東日本大震災支援バザー	1日	1	835
ひと味違うドイツ文学講座	6日	6	182
千の音色でつなぐ絆コンサート～震災ヴァイオリンによる演奏～	1日	1	183
市民ボランティア講座「3.11から2年半経ち… 避難生活から見えてくること～対話から次の一歩へ～」	1日	1	25

♪福福カフェ♪	日数	回数	参加者数		
			子ども	大人	合計
	1日	6	35	87	122

Ⅶ 収益事業および収益その他事業

Ⅶ-1 不動産賃貸事業

不動産賃貸(賃貸契約)

貸与先団体数	5
--------	---

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	28
貸与件数	284

ゆかりハウス

貸与件数	6団体	延210泊
------	-----	-------

Ⅶ-2 フィットネスクラブ事業

在籍数

	延入会者	延退会者	3月末在籍数
フリーコースメンバー	83人	95人	421人
法人メンバー	0	0	1社

スクール

クラス	年間実施回数	累計参加者数	クラス	年間実施回数	累計参加者数
バレエ(月)	40	334	スイミング(ワオクラブ)フラミンゴ(月)	40	542
バレエ(土)	40	355	スイミング(ワオクラブ)カモメ(水)	40	572
ヨガ(月)	40	560	水中ウォーキング(月)	40	462
ヨガ(金)	40	772	水中ウォーキング(水-1)	40	650
転倒予防	40	548	水中ウォーキング(水-2)	40	622
身体調整コース	40	262	水中ウォーキング(金-1)	40	185
初めてのフラ	24	135	水中ウォーキング(土)	40	631
スイミング初級(火)	40	300	健康水泳	40	442
スイミング初級(水)	40	341	ダイビング(金)	44	213
スイミング中級(月)	40	391	日本泳法(火)	40	272
スイミング中級(木)	40	425	日本泳法(木)	40	259
スイミング中級(金)	40	534	シンクロナイズドスイミング(火)	40	325
スイミング上級(火)	40	669	シンクロナイズドスイミング(木)	40	356
スイミング上級(水)	40	246	シンクロナイズドスイミング(金)	40	382

パーソナルレッスン

	延参加者数
スタジオマンツーマンレッスン	428
プールプライベートレッスン	203

Ⅶ-3 クラス事業

	延回数	延参加者数
思いっきり歌	11	139
しあわせのレシピ	5	58
くらしの中のアロマセラピー	4	25

Ⅶ-5 会員グループ(理解普及事業)

グループ登録数	グループ登録者数		
	会員	一般	合計
72	363	152	515

\* 会員は成人会員、成人会友、賛助会員

Ⅷ その他

Ⅷ-1 会員数

	人数
成人会員(18歳以上の女性)	814
年少会員(18歳未満の女性)	0
成人会友(18歳以上の男性)	17
年少会友(18歳未満の男性)	0
賛助会員	31
合計	862

Ⅷ-2 職員数

常勤職員(2013年3月31日現在) 92人

### Ⅷ-3 機関紙

発行実績：年 11 回、1300 部

対 象：東京YWCA会員、地域YWCA、関係団体など

体 裁：A3 版 2 ページ

#### 1 面主張記事：

4 月号 NO. 681

イエスは負け続けた（金井 創）

5 月号 NO. 682

それでも日本国憲法を活かすには（斉藤小百合）

号外：会員総会報告

6 月号 NO. 683

『核』否定の思想に立ち、生き方を問い直す  
（金剛静慧）

7 月号 NO. 684

7 月の参議院選挙を控えて

～護憲・脱原発勢力の総結集を!!～（宇都宮健児）

8 月号 NO. 685

平和に生きる権利を守る～第 5 回憲法カフェ

「憲法 9 条を世界の主流に」から～（鈴木伶子）

10 月号 NO. 686

「蛇のように賢く」ならねば

—実質的改憲に抗して—（石井摩耶子）

11 月号 NO. 687

あの時から（太田玲子）

12 月号 NO. 688

クリスマスメッセージ

私たちに灯された光（宇野 緑）

1 月号 NO. 689

「光あれ」（川戸れい子）

2 月号 NO. 690

議会制民主主義を問う（平山芳子）

3 月号 NO. 691

会員総会資料

2014 年度基本方針・重点課題案

豊かな連携を目指して（内山佳子）

号外：選挙公報

### Ⅷ-4 財団広報紙

発行実績：年 2 回（4 月、10 月）、2000 部

対 象：一般

体 裁：A4 版 4 ページ

特 集：vol.5（4 月）公益目的事業、vol.6（10 月）東日本大震災被災者支援事業

### Ⅷ-5 世界YWCA、日本YWCA関連の集会および派遣

	日程
世界YWCAデー集会	2013 年 4 月 20 日
世界YWCA会長及び会計役員来訪（表敬訪問）	2013 年 10 月 10 日
YMCA/YWCA 合同祈祷週における 東京YMCA/在日本韓国YMCA/東京YWCA 合同祈祷会	2013 年 11 月 14 日
韓国YWCA 来訪（研修及び表敬訪問）	2013 年 12 月 11 日

### Ⅷ-6 YWCA 関連の海外からの来訪者

2013/10/10 世界YWCA会長及び会計役員訪問

Ms. Deborah Thomas-Austin（世界YWCA会長）

Ms. Carolyn Watkins Flowers（世界YWCA会計役員）

2013/12/11 韓国YWCA研修・訪問

Ms. Kim Haekyung（ブチヨンYWCA・部長） Ms. An Kyoungock（ブチヨンYWCA・ヘルパー）

Ms. Jung Hiju（ソウルYWCA・次長） Ms. Jung Jin-Nam（ソウルYWCA・ヘルパー）

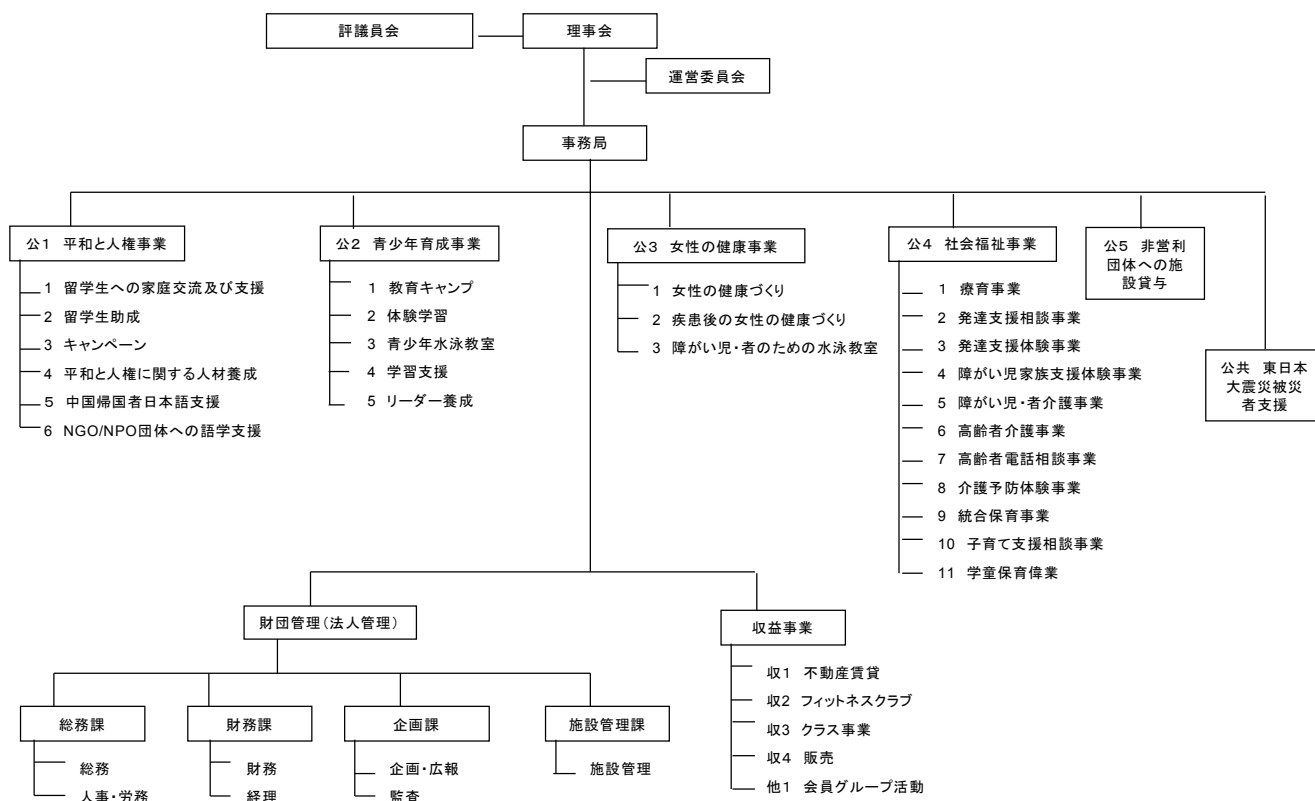
Ms. Hong Seonggae（ソナンYWCA・幹事） Ms. Bae Hwasoo（ソナンYWCA・ヘルパー）

Ms. Kim Youngock（アンサンYWCA・ヘルパー） Ms. Song Rokhee（ブチヨンYWCA・事務総長）

Ms. Bae Jung Mee（韓国YWCA連合会・部長）ほか、計 14 名



## ■2013 年度 公益財団法人東京 YWCA 組織図



## ■理事・監事

代表理事 川戸れい子  
 常務理事 尾崎裕美子  
 理事 内山佳子 田口美穂 寺岡祥子 外山真理 新美まり 能美祐子  
 監事 八木昭子 横川民子

2014/3/31 現在

## ■評議員

飯塚拓也 岩村太郎 及川津紀子 大島和美 河島京美 川島堅二 杉本策子 瀬戸英治  
 高橋りえ子 新田和子 東平瑞江 細貝順子 前田侑子 町田洋子 実生律子

2014/3/31 現在

## ■ 加盟・協力団体 (順不同)

公益法人協会 全国公益法人協会 神田法人会 神田法人会源泉部会 東京都社会保険協会 千代田年金委員会  
神田学会 防火管理者協議会 災害防止協議会 神田災害防止会 東京災害ボランティアネットワーク 千代田観光  
協会 千代田区社会福祉協議会 売買春問題ととりくむ会 NCC 世界祈祷日実行委員会 全国女性シェルターネット  
人身売買禁止ネットワーク (JNATIP) 心の東京革命推進協議会 全国女性会館協議会 日本国際教育交流協会  
(JAFSA) アジア学生文化協会 中国残留孤児援護基金 日本キャンプ協会 自然体験活動推進協議会 長野森林組  
合 フォレスト・サポーターズ 長野森林組合 「出会いと体験の森へ」実行委員会 0422 キリスト教会合同プロ  
グラム実行委員会 むさしの市民平和の集い実行委員会 東京日本語ボランティアネットワーク 武蔵野市国際交流協  
会 調布市社会福祉協議会 調布市福祉まつり実行委員会 板橋区男女平等推進センター登録団体連絡会  
板橋区社会福祉協議会 全国児童発達支援協議会 区内療育機関連絡会 東京都社会福祉協議会介護保険事業者連  
絡会 板橋区介護サービス全事業所連絡会 東京都水泳協会 関東シンクロ協会 水府流太田派連絡会 フィットネ  
ス産業協会 神田環境衛生協会

## ■ 賛助会員・寄付者 (敬称略・五十音順)

### 賛助会員

(個人・団体)

明石一 石川松子 石橋さなえ 内山康一 浦野和一 大海由嗣 岡田正義 尾喜純一 忍足直子 活水学院同窓会  
株式会社トップナッチツーリスト 神崎典子 郡恭子 後藤恵子 笹岡やすみ 高山和子 高山法子 田中英夫  
名取湧子 橋本永子 原田国子 福田真紀子 藤井野百合 堀尾吉晴 榎操 松崎美子 宮下まり 山口恒恵  
山口洋子 湯田はるみ 渡辺峯

### 寄付者

(個人)

相澤加壽子 相原貴之 赤川恵子 秋田みどり 浅井春美 浅野歌都子 浅原由美 新井美和子  
Alirezaei Abyaneh Hassan 池上三喜子 石井京子 石川松子 石川玲子 石澤慶子 石田貞子 磯野宏子  
板花喜代子 市川順子 伊藤都留子 稲毛正隆 乾康子 井上久美子 井上敬子 井上昌子 岩城紀代子  
岩田陽子 上野操 Wong Peng Kuen 牛久保千明 内田信子 内山康一 内山佳子 及川津紀子 大内秋子  
大沢民子 大沢登志子 太田範子 大瀧泰代 大野綾子 大庭貞江 大橋節子 大海由嗣 岡玲子 尾喜純一  
尾崎裕美子 小澤敏 忍足直子 越知倫子 オルソン ロアン 柿元恵美子 柏木妙子 加藤純 金井淑子  
金子まりな 金田やよひ 鎌田早苗 鎌田真未子 河合美智子 川上美砂 川尻泰子 川戸れい子 川端恵美子  
神田富子 北里清子 木村澪子 京野洋子 桐山澤 桐山岳大 栗林菊夫 黒田悦子 小林早苗 小林敏江  
小林秀雄 小林峻太郎 小藤知子 是松玲子 近藤敏子 近藤賚子 齋藤民子 笹岡やすみ 佐々木浩子 佐藤清子  
佐藤チエ子 佐藤マリ子 佐藤美代子 三宮周 芝崎良子 柴田慶子 嶋結子 島崎真奈美 清水幸江 下川憲子  
John Jorgenson 杉浦アサ 杉野孝子 杉本陽子 Scott Spurgeon 鈴木俊子 鈴木道子 須田永子 相馬光子  
田居多津子 高草誠子 高橋悦子 高橋伸 高橋敏江 高橋礼子 高平みつ子 田口美穂 佐美貞子 嶽崎敦子  
田島照子 只野玲子 楯石てる子 田中亜季 田中幸子 田中満智子 田中美智子 田辺身代子 谷口和代

(寄付者・前頁より続き)

谷山久美子 田村セツ 長清子 手島千景 寺出壽美子 戸井眞澄 東海敬子 土岐尚子 戸田美津子 外崎弘子  
外山京子 トリッパツカンウツ タツト 鳥海百合子 中瀬和子 中野キミ子 中畑陽 中村みゆき 那須野玲子 新田和子  
入谷徳子 布村美弥子 能智孝明 野口由美 野原恒夫 Passakorn Linmaneechote 橋本永子 長谷川公子  
畑中恵一 林陽之輔 原万里子 原田国子 日暮時子 久宗百合子 平野久美子 福田育代 藤井野百合  
藤井八重子 藤崎芳男 藤田昭子 藤原昌子 古沢昭子 星光世 細川敦子 細川武 堀井瑞子 堀内香代子  
前田侑子 町田直明 松生由利 松岡美智 松木真奈 松田明美 松原邦子 三浦猛 三浦まり 三島次郎  
水村裕一 宮城崇美子 三宅香織 宮寄忠次 宮崎珠子 宮沢公子 宮下まり 宮本統子 宗政祥子 村上知子  
村上由美子 毛利亮子 八木敏子 八木正子 八星恵子 山口恒恵 山口ふじ子 山口洋子 山根尚子 吉倉鶴子  
吉田公子 吉田秀雄 吉田真那 若林康子 和田博子 渡邊繁 渡辺寿美子 渡辺弘子 渡千鶴子 匿名 30 名

(団体)

アンコアを支える会 椅子もより 板橋センターの事業を支えるクリスマスバザー実行委員会 英語研究会  
オイコクレジット・ジャパン お菓子つくりたい おもちゃの図書館全国連絡会 音訳ボランティアグループ  
株式会社トップナッチツーリスト 果林陶 玉成保育専門学校 暮らしを考える会  
恵泉女学園大学学生有志 国領ミーティング こひつじグループ 在韓被爆者問題市民会議 紗羅の会  
「支援者に対する支援」を支える会 肢体不自由者水泳を支える会 七彩会 シニアダイヤル有志  
シマウマくらぶ親の会 社会福祉事業部を支える会 すみれ会 全国友の会中央部  
たっぷりディスカッション 短歌紫陽会 東京レディース・シンガーズ  
東京YWCA会員グループ合同クリスマスの集い 東京YWCA専門学校同窓会 東洋英和女学院  
日本基督教団高輪教会 日本基督教団久が原教会 野尻支援会 ぶどうの会 Bluebells  
真木雅子とその仲間たち 三菱商事株式会社 みどり会 武蔵野センターの活動を支える会 ゆりの木工房  
「留学生の母親」運動グループまどか 「留学生の母親」運動城南地域の会 「留学生の母親」運動杉並地域の会  
「留学生の母親」運動世田谷地域の会 「留学生の母親」運動総武線沿線地域の会  
「留学生の母親」運動工房「ひだまり」 「留学生の母親」運動を支える会 Rachel Smile Box その他有志

貸借対照表  
2014年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	306,781,709	213,646,131	93,135,578
未収金	15,650,649	12,126,113	3,524,536
未収会費	7,000	7,000	0
商品	549,709	665,422	△ 115,713
前払費用	4,175,450	4,175,450	0
前払金	3,618,695	4,173,941	△ 555,246
立替金	0	44,000	△ 44,000
流動資産合計	330,783,212	234,838,057	95,945,155
<b>2. 固定資産</b>			
<b>(1) 基本財産</b>			
土地	86,917,089	86,917,089	0
建物	1,059,277,312	1,122,504,704	△ 63,227,392
建物付属設備	15,450,854	28,713,845	△ 13,262,991
基本財産引当預金	141,000,000	141,000,000	0
基本財産合計	1,302,645,255	1,379,135,638	△ 76,490,383
<b>(2) 特定資産</b>			
建物	103,858,723	53,085,357	50,773,366
建物付属設備	55,338,811	648,143	54,690,668
構築物	352,343	456,351	△ 104,008
車両運搬具	1	1	0
什器備品	2,014,668	1,800,024	214,644
ソフトウェア	88,550	185,150	△ 96,600
女性の健康サポート特定資産	15,000,000	15,000,000	0
留学生基金特定資産	26,475,423	26,475,423	0
留学生資金特定資産	3,800,202	3,820,202	△ 20,000
留学生奨学金特定資産	11,468,059	9,508,059	1,960,000
会員サポート特定資産	800,000	800,000	0
介護職員研修特定資産	947,635	947,635	0
中国帰国者日本語教室特定資産	2,000,000	2,000,000	0
野外環境教育預り保証金引当資産	11,400,000	11,400,000	0
保育園建築費積立資産	0	115,000,000	△ 115,000,000
東京YWCA東日本大震災被災者支援積立資産	1,398,482	398,482	1,000,000
フィットネス預り保証金引当資産	6,000,000	6,300,000	△ 300,000
預り敷金積立資産	189,816,420	185,321,820	4,494,600
会館整備費積立資産	216,715,201	216,715,201	0
特定資産合計	647,474,518	649,861,848	△ 2,387,330
<b>(3) その他固定資産</b>			
土地	4,567,750	4,567,750	0
建物	254,516,312	146,760,292	107,756,020
建物付属設備	119,613,436	82,240,507	37,372,929
構築物	8,693,556	6,678,907	2,014,649
車両運搬具	3	174,002	△ 173,999
什器備品	7,825,179	10,042,500	△ 2,217,321
リース資産	9,415,350	11,721,150	△ 2,305,800
建設仮勘定	0	69,900,000	△ 69,900,000
ソフトウェア	7,092,013	7,301,763	△ 209,750
図書	1,761,120	1,761,120	0
電話加入権	2,395,068	2,395,068	0
差入保証金	70,000	70,000	0
出資金	30,000	30,000	0
長期貸付金	0	6,232	△ 6,232
留学生貸付金	18,000	149,600	△ 131,600
長期前払費用	12,526,350	16,701,800	△ 4,175,450
その他固定資産合計	428,524,137	360,500,691	68,023,446
固定資産合計	2,378,643,910	2,389,498,177	△ 10,854,267
資産合計	2,709,427,122	2,624,336,234	85,090,888
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	25,061,323	37,641,921	△ 12,580,598
未払法人税等	24,516,255	25,165,000	△ 648,745
未払消費税等	2,973,600	547,300	2,426,300
前受金	4,129,625	7,503,085	△ 3,373,460
前受会費	7,000	0	7,000
預り金	2,308,733	6,341,088	△ 4,032,355
1年内返済予定長期借入金	1,470,000	0	1,470,000
リース債務	2,305,800	2,305,800	0
流動負債合計	62,772,336	79,504,194	△ 16,731,858
<b>2. 固定負債</b>			
長期借入金	48,530,000	50,000,000	△ 1,470,000
預り保証金	17,400,000	17,700,000	△ 300,000
預り敷金	189,816,420	185,321,820	4,494,600
長期リース債務	7,109,550	9,415,350	△ 2,305,800
固定負債合計	262,855,970	262,437,170	418,800
負債合計	325,628,306	341,941,364	△ 16,313,058
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
寄付金	288,120,848	294,131,256	△ 6,010,408
補助金・助成金	118,467,622	11,323,561	107,144,061
指定正味財産合計	406,588,470	305,454,817	101,133,653
(うち基本財産への充当額)	(186,444,055)	(192,738,372)	(△ 6,294,317)
(うち特定資産への充当額)	(220,144,415)	(112,726,345)	(107,418,070)
<b>2. 一般正味財産</b>			
1,977,210,346	1,976,940,053	270,293	
(うち基本財産への充当額)	(1,116,201,200)	(1,186,397,266)	(△ 70,196,066)
(うち特定資産への充当額)	(220,113,683)	(334,113,683)	(△ 114,000,000)
正味財産合計	2,383,798,816	2,282,394,870	101,403,946
負債及び正味財産合計	2,709,427,122	2,624,336,234	85,090,888

正味財産増減計算書  
2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	132,661	130,196	2,465
基本財産受取利息	132,661	130,196	2,465
② 特定資産運用益	367,709	505,048	△ 137,339
特定資産受取利息	269,490	372,396	△ 102,906
特定資産有価証券利息	89,250	82,948	6,302
特定資産受取利息振替額	8,969	49,704	△ 40,735
③ 受取会費	4,741,000	4,902,000	△ 161,000
成人受取会費	4,215,000	4,310,000	△ 95,000
年少会員受取会費	0	2,000	△ 2,000
成人会友受取会費	90,000	85,000	5,000
賛助会員受取会費	436,000	505,000	△ 69,000
④ 事業収益	623,491,928	626,189,564	△ 2,697,636
入学金収益	0	60,000	△ 60,000
登録費収益	5,423,600	5,771,250	△ 347,650
授業料・講習料収益	70,796,714	77,542,803	△ 6,746,089
フィットネス会費収益	90,089,070	90,731,445	△ 642,375
利用料収益	12,456,471	9,804,985	2,651,486
教材費収益	739,199	1,375,571	△ 636,372
手数料収益	242,678	260,546	△ 17,868
売上収益	3,096,620	2,469,154	627,466
施設費収益	836,000	1,634,000	△ 798,000
施設設備利用料収益	9,677,784	9,544,258	133,526
賃貸料収益	358,077,869	361,231,707	△ 3,153,838
障がい児者支援費収益	37,819,630	35,527,341	2,292,289
障がい児者利用負担金収益	2,290,464	2,330,736	△ 40,272
相談料収益	95,950	176,000	△ 80,050
高齢者介護報酬収益	28,892,136	25,292,956	3,599,180
高齢者利用負担金収益	2,850,643	2,351,447	499,196
高齢者受託収益	107,100	85,365	21,735
⑤ 受取補助金等	229,971,427	67,565,153	162,406,274
受取地方公共団体補助金助成金	176,116,324	20,375,500	155,740,824
受取民間補助金助成金	5,287,878	5,179,185	108,693
受取受託収益	38,338,630	41,351,877	△ 3,013,247
受取補助金等振替額	10,228,595	658,591	9,570,004
⑥ 受取寄付金	22,627,422	21,360,415	1,267,007
受取寄付金	15,049,465	14,449,712	599,753
受取寄付金振替額	7,577,957	6,910,703	667,254
⑦ 雑収益	4,893,049	5,729,322	△ 836,273
受取利息	51,330	36,968	14,362
その他雑収益	4,841,719	5,692,354	△ 850,635
経常収益計	886,225,196	726,381,698	159,843,498
(2) 経常費用			
① 事業費	797,701,302	699,529,885	98,171,417
職員給料手当	87,188,979	98,081,131	△ 10,892,152
職員通勤手当	2,790,857	3,680,540	△ 889,683
職員法定福利費	14,176,270	15,958,381	△ 1,782,111
職員中退共退職金	3,953,740	3,942,243	11,497
教員給料手当	89,428,706	29,579,969	59,848,737
教員通勤手当	2,638,827	1,350,936	1,287,891
教員法定福利費	13,045,188	4,513,858	8,531,330
教員中退共退職金	1,361,480	1,104,000	257,480
非常勤給料手当	97,342,656	79,995,704	17,346,952
非常勤通勤手当	6,759,694	6,250,094	509,600
非常勤法定福利費	4,919,774	3,150,046	1,769,728
人材派遣費	377,527	0	377,527
福利厚生費	1,739,091	507,376	1,231,715
手数料	2,437,993	2,266,421	171,572
委託費	59,994,699	64,756,369	△ 4,761,670
支払報酬	10,245,330	12,179,927	△ 1,934,597
消耗品費	20,591,671	15,403,249	5,188,422
消耗備品費	1,864,551	0	1,864,551
食材費	6,641,282	0	6,641,282
旅費交通費	12,942,831	13,359,421	△ 416,590
通信運搬費	5,657,514	5,424,487	233,027
印刷製本費	1,013,905	999,195	14,710
広告宣伝費	1,611,495	1,781,760	△ 170,265
会議費	160,315	128,337	31,978
渉外費	120,960	134,938	△ 13,978
諸会費	528,283	384,878	143,405
加盟分担金	0	5,518,000	△ 5,518,000
教材費	6,751,896	960,719	5,791,177
新聞図書費	155,937	143,157	12,780
研修費	201,450	160,500	40,950
賃借料	1,231,149	192,280	1,038,869
リース料	5,919,517	9,776,069	△ 3,856,552
仕入費	2,462,508	1,899,969	562,539
修繕費	23,553,435	24,843,760	△ 1,290,325
衛生清掃費	21,365,986	20,451,651	914,335
光熱水費	60,692,239	60,055,091	637,148
保険料	4,018,354	2,705,290	1,313,064
公租公課	96,986,259	99,747,910	△ 2,761,651
支払寄付金	1,000	52,236	△ 51,236
保守点検料	8,440,980	7,493,704	947,276

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
奨学給付費	2,520,000	2,520,000	0
支払利息	600,000	192,739	407,261
雑費	602,321	2,365,498	△ 1,763,177
車輛費	353,177	306,690	46,487
減価償却費	108,136,026	95,211,362	12,924,664
長期前払費用償却額	4,175,450	0	4,175,450
② 管理費	69,325,716	66,204,861	3,120,855
職員給料手当	31,922,490	29,582,418	2,340,072
職員通勤手当	1,203,450	1,088,106	115,344
職員法定福利費	5,145,746	4,971,299	174,447
職員中退共退職金	1,381,600	1,617,837	△ 236,237
非常勤給料手当	1,356,848	1,760,865	△ 404,017
非常勤通勤手当	97,257	160,964	△ 63,707
非常勤法定福利費	7,082	7,148	△ 66
福利厚生費	103,264	310,478	△ 207,214
手数料	365,098	434,211	△ 69,113
委託費	3,868,050	6,876,789	△ 3,008,739
支払報酬	993,988	1,339,564	△ 345,576
消耗品費	857,069	1,450,916	△ 593,847
旅費交通費	132,927	403,327	△ 270,400
通信運搬費	1,417,439	1,619,498	△ 202,059
印刷製本費	2,229,429	2,696,459	△ 467,030
広告宣伝費	441,000	362,250	78,750
会議費	0	2,016	△ 2,016
渉外費	144,749	61,510	83,239
諸会費	166,102	187,414	△ 21,312
加盟分担金	8,081,000	2,400,000	5,681,000
新聞図書費	108,613	123,630	△ 15,017
研修費	376,710	397,120	△ 20,410
賃借料	97,068	178,919	△ 81,851
リース料	436,834	562,874	△ 126,040
修繕費	348,770	349,646	△ 876
衛生清掃費	1,364,607	440,271	924,336
光熱水費	1,673,077	1,729,162	△ 56,085
保険料	469,681	236,897	232,784
公租公課	963,846	1,000,880	△ 37,034
支払寄付金	20,000	0	20,000
保守点検料	182,127	195,499	△ 13,372
雑費	42,034	105,086	△ 63,052
減価償却費	3,327,761	3,551,808	△ 224,047
経常費用計	867,027,018	765,734,746	101,292,272
評価損益等調整前当期経常増減額	19,198,178	△ 39,353,048	58,551,226
基本財産評価損益等	29,350	0	29,350
特定資産評価損益等	23,920	12,093	11,827
評価損益等計	53,270	12,093	41,177
当期経常増減額	19,251,448	△ 39,340,955	58,592,403
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① その他雑収益	3,990,700	1,878,200	2,112,500
還付金	3,990,700	1,878,200	2,112,500
② 受取補助金等	111,644	0	111,644
受取補助金等振替額	111,644	0	111,644
③ 受取寄付金	1,442,351	1,200,000	242,351
受取寄付金振替額	1,442,351	1,200,000	242,351
経常外収益計	5,544,695	3,078,200	2,466,495
(2) 経常外費用			
① 事業費	56,600	0	56,600
貸倒損失	56,600	0	56,600
② 固定資産除却損	24,469,250	1,244,147	23,225,103
建物除却損	20,312,764	0	20,312,764
建物付属設備除却損	1,752,135	0	1,752,135
構築物除却損	2,321,460	0	2,321,460
車両運搬具除却損	0	1	△ 1
什器備品除却損	82,891	1,244,146	△ 1,161,255
経常外費用計	24,525,850	1,244,147	23,281,703
当期経常外増減額	△ 18,981,155	1,834,053	△ 20,815,208
当期一般正味財産増減額	270,293	△ 37,506,902	37,777,195
一般正味財産期首残高	1,976,940,053	2,014,446,955	△ 37,506,902
一般正味財産期末残高	1,977,210,346	1,976,940,053	270,293
II 指定正味財産増減の部			
① 特定資産運用益	8,969	41,454	△ 32,485
特定資産受取利息	8,969	4,950	4,019
特定資産有価証券利息	0	36,504	△ 36,504
② 受取補助金等	117,484,300	0	117,484,300
受取地方公共団体補助金助成金	117,254,300	0	117,254,300
受取民間補助金助成金	230,000	0	230,000
③ 受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
④ 特定資産償還益	11,221	8,250	2,971
特定資産償還益	11,221	8,250	2,971
⑤ 特定資産償還損	0	△ 9,900	9,900
特定資産償還損	0	△ 9,900	9,900
⑥ 一般正味財産への振替額	△ 19,370,837	△ 8,818,998	△ 10,551,839
一般正味財産への振替額	△ 19,370,837	△ 8,818,998	△ 10,551,839
当期指定正味財産増減額	101,133,653	△ 8,779,194	109,912,847
指定正味財産期首残高	305,454,817	314,234,011	△ 8,779,194
指定正味財産期末残高	406,588,470	305,454,817	101,133,653
III 正味財産期末残高	2,383,798,816	2,282,394,870	101,403,946

補助金及び助成金

2013年4月1日から2014年3月31日まで

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
<b>地方公共団体補助金助成金</b>						
福島県安心こども基金特別対策事業補助金	福島県	0	178,000	178,000	0	
高齢者健康づくり事業補助金	調布市	0	600,000	600,000	0	
調布市延長保育事業費補助金	調布市	0	7,268,100	7,268,100	0	
調布市保育士等処遇改善臨時特例事業補助金	調布市	0	654,000	654,000	0	
調布市保全地区等の保全に関する補助金	調布市	0	84,000	84,000	0	
東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金	東京都	0	11,838,000	11,838,000	0	
調布市民間保育所等運営費等補助金	調布市	0	134,918,224	134,918,224	0	
板橋区心身障がい児療育訓練事業補助金	板橋区	0	19,276,000	19,276,000	0	
民間保育所整備費補助金	調布市	0	118,254,300	118,254,300	0	
千代田区新エネルギー及び省エネルギー機器等導入助成金	千代田区	0	300,000	300,000	0	
<b>民間補助金助成金</b>						
独立行政法人福祉医療機構助成(福祉活動支援事業)	独立行政法人福祉医療機構	0	1,638,000	1,638,000	0	
東日本大震災被災者支援「放射線量の多い地域に住む子どもと保護者の転地保養」プログラム助成金	財団法人日本YWCA	0	500,000	500,000	0	
森林山村多面的機能発揮対策交付金	長野県地域協議会	0	1,120,000	1,120,000	0	
財団法人俱進会助成 親が日本語を母語としない家庭の子どもと保護者への支援	財団法人俱進会	0	500,000	500,000	0	
子どもゆめ基金助成金(子ども体験活動助成)	独立行政法人国立青少年教育振興機構	0	624,729	624,729	0	
東京都共同募金会配分金	社会福祉法人東京都共同募金会	0	300,000	300,000	0	
独立行政法人福祉医療機構借入金利子補給費	公益財団法人東京都福祉保健財団	0	792,739	792,739	0	
生活習慣病予防検診費用助成金	社会福祉法人福利厚生センター	0	42,410	42,410	0	
合 計		0	298,888,502	298,888,502	0	


# ■ 監査報告


## 独立監査人の監査報告書

2014(平成26)年6月4日

公益財団法人 東京YWCA  
代表理事 川戸れい子 殿

良 公 監 査 法 人

指 定 社 員 公認会計士 富田 美保   
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 伊藤 みどり   
業 務 執 行 社 員

### <財務諸表監査>

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に準じて、公益財団法人東京YWCAの2013年4月1日から2014年3月31日までの2013年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン1-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

### 財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及

びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### <財産目録に対する意見>

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に準じて、公益財団法人東京YWCAの2014年3月31日現在の2013年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

### 財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

### 財産目録に対する監査意見

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

### 利害関係

公益財団法人東京YWCAと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上



## 施設一覧

---

<b>東京YWCA会館</b>	〒101-0062	東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
	TEL	03-3293-5421 (代表) FAX 03-3293-5570

---

<b>東京YWCA板橋センター</b>	〒174-0043	東京都板橋区坂下 1-34-25
	TEL	03-5914-1854 FAX 03-5914-1852

---

<b>東京YWCA国領センター</b>	〒182-0022	東京都調布市国領町 7-11-1
	TEL	042-483-5151 FAX 042-483-5207

---

<b>東京YWCA武蔵野センター</b>	〒180-0006	東京都武蔵野市中町 1-19-16
	TEL	0422-52-3881 FAX 0422-53-1436

---

<b>東京YWCA野尻キャンプ場</b>	〒389-1312	長野県上水内郡信濃町富濃 3946
	TEL	026-255-2414

---

## 公益財団法人東京YWCA

URL: <http://www.tokyo.ywca.or.jp/>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

2014年6月発行